

学生の主体的学習による保育の基本理解を目指した 保育原理の授業実践

著者	菜原 桂子
雑誌名	北翔大学短期大学部研究紀要
巻	55
ページ	133-138
発行年	2017
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002506/

学生の主体的学習による保育の 基本理解を目指した保育原理の授業実践

Educational Report: Childcare Theory Focused on Expanding Fundamental
Understanding of Childcare Through Independent Study by Students

菜 原 桂 子*
Keiko NAHARA

I は じ め に

保育原理は保育士養成課程において必修科目として位置づけられている。また、幼稚園教諭養成課程においても、幼稚園教諭免許を取得するうえで、「保育原理」という科目名の指定はないものの、多くの幼稚園教諭養成校では「保育原理」という科目が設置されている。これは、幼稚園教諭免許取得にあたり、「教職に関する科目」の、「教育の基礎理論に関する科目」の内容として「保育原理」を位置づける養成校が多くあるからである。本学でも、「保育士養成課程」と「幼稚園教諭養成課程」において「保育原理」を位置づけ、「保育の基本理論」や「保育の実践理論」などを学んでいる。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容をしっかり学び理解していくことが重要であり、保育の意義について学びを深めていくことを念頭においている。保育者として守るべき大切な基礎・基本を、理解して今後の学びに繋げていくことを目標としている。

しかし、入学したばかりの4月、1年次前期の開講ということもあり、学生のモチベーションが上がっている段階からのスタートというメリットはあるが、今まで高校の授業は50分の授業で行っていたところ90分の座学に変わることや、40人弱の小集団での授業形態が130～150人の大集団の授業形態に変わること、さらには半数近くは初めての一人暮らしとなることにおける学生の個々の環境の変化等、90分の理論中心の講義内容を15コマ分修得するには、多くの課題がある。また、学習習慣に対しても個人差の開きが大変大きく、理想とされる「学生自らの学びの尊重」に期待していると教授内容に対しての到達目標の達成は難しくなる一方である。そこで、学生が主体的かつ意欲的に学び保育の基礎・基本を理解するためにはどのような授業の展開が効果的であるのかを考察し、その内容を具体化して取り組み、その効果を考察して次年度以降の授業に生かしていきたいと考えた。

* 北翔大学短期大学部こども学科

Ⅱ 現状の課題と取り組みの概要

現状としてあげられる課題は、再試験者対応時の面談や補講時に行う学習の振り返りのレポートから読み取ったところ「学習の習慣が身についていない」「今まで勉強しなくてもクリア（進級・卒業等）出来てきたため、学習する必要性が実感できない」「長い時間集中できない」「勉強の方法がわからない」「暗記が出来ない」「耳で聞く言葉だけの理解が難しい」「文字を書く経験が少ないため、書くという動作が億劫である、又は遅い」「基本的に勉強が嫌い」「学習する意欲がわからない」等挙げられる。この現状で授業がスタートしていくのである。

そこを踏まえての取り組みとして重要に捉えたのは、①「自らの学習意欲を高め、その成果や効果を体験する事」②「何のために学ぶのか、なぜ学ぶことが必要なのかを知る事」③「途中であきらめずに最後まで取り組むことの意義を理解する事」である。そのために、①では学習の方法論を提案し、それを基盤として自分自身の考えを取り入れ柔軟性を持った学習を行うように考えた。定期試験の問題を十分に考慮し、ボリュームのある問題数と保育原理の教授内容として身に付けて行かなければならない内容を学習の成果が出やすい出題の仕方で作成することとした。②については授業ごとに本時の目標を明確にしていくことと、自分自身が保育者を目指した理由やその仕事の魅力などが再確認できる機会を与えるようにした。③については、最後まで妥協せずにやるべきことをやり遂げる姿勢を実践を通して教員側が示していくことを行った。

Ⅲ 授 業 の 概 要

3-1 授業のねらいと到達目標

ね ら い：現代の保育情勢はめまぐるしく変化し、保育ニーズは多様化しています。それに伴い保育者の求められる資質や専門性は期待度を増しています。保育とは何か…と問いながら、保育の基本を理解します。

到達目標：①保育の意義と保育の基本、内容、方法について理解する。

②保育の思想と歴史的返還について理解する。

③保育の現状と課題について考え理解する。

3-2 授業

本研究にかかる授業実践は以下のように実施した。

- ① 実施年月：2014. 2015年4月～8月 ② 実施科目：保育原理
- ② 対象学年：1年 ④ 開講時数：90分×15回
- ⑤ 学生数：2014年150名 2015年121名
- ⑥ 教室環境：授業時⇒200名対応教室 黒板・OA 機器完備
補講時⇒ 50名対応教室 黒板・OA 機器完備

⑦ 目標：・保育の意義と保育所保育指針における保育の基本について理解する。

- ・保育の内容と方法の基本について理解する。
- ・保育の思想と歴史的返還について理解する。
- ・保育の現状と課題について考え理解する。

⑧ 内容：

1	保育とは何かについて
2	保育・教育の原理・理念・社会的意義について 保護者との協働について
3	保育所保育・家庭的保育・保育者の役割について こどもの最善の利益を考慮した保育について
4	保育の基本と内容について 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解について 養護と教育の一体性について
5	事例を通した子どもの環境と保育について
6	発達過程と保育の内容について
7	年齢別の保育の展開と保護者との緊密な連携の必要性について
8	保育の方法と形態について 保育におけるこども理解と望ましい未来をつくり出す力の基礎を培っていることについて
9	保育における、個と集団への配慮について
10	保育における、計画、実践、記録、評価、改善等の過程と方法、意義について
11	保育の思想と歴史的返還について 諸外国の保育の思想と歴史について
12	日本の保育の思想と歴史について
13	保育の連携について 子育て支援の機能、家庭、小学校との連携について
14	保育の現状と課題について 日本や諸外国の保育の現状と課題について
15	保育者の専門性について 保育者の倫理観、保育者の専門性について

Ⅳ 授業の実践と具体的方法

ここでは、Ⅱで述べた課題に対する取り組みの実践例として15回の授業の一部と学生の取り組みの状況、定期試験とその後の対応について述べていく。

4-1

授業の初めに「保育者を志した理由」「どのような保育者を目指すのか」「自分が目指す保育者になるためにどのように学んでいきたいと考えるのか」をレポートにまとめ提出する。その後添削し、コメントする。3回目の講義でグループワークを行い、「人的環境として望ましい保育者像」と、「人的環境として課題のある保育者像」を話し合い、その結果を人物像を描いて具体化していく。自分自身が学習を怠ると課題の多い責任感のない保育者になってしまうことを考えどのように感じるのか等、自分自身を客観視してとらえて今後の学習意欲に繋げていくことを目的とする。各自講義ノートを作成し、授業では、重要ポイントの柱になるところを

板書して、それを「木」と「枝」というようにイメージするように伝え、そこにどんどん「葉」や「実」を自身の手で付けていく。この「葉」や「実」が講義中に講話を行ったり、説明している部分と捉えるようにした。「木」と「枝」はしっかり書くが、「葉」と「実」は耳でしっかり聞きながら、「自分が読むことが出来る字であればよいことも伝える。講義内容はできるだけ現場の視点や事例を挙げ学生が興味を持つことができるように工夫する。

4-2

定期試験に向けての学生の取り組み状況を確認するためにアンケート調査を行った。回答数は111名で質問の5は具体的に記述するようにしているため、その内容を抜粋した。そのため複数の回答になっている。

	質問事項	回答人数（はい）	回答人数（いいえ）
1	保育原理の授業ノートを作成しましたか。	111名	0名
2	板書以外でも重要だと思うところを授業ノートに書き込みましたか。	99名	12名
3	授業ノートは試験勉強に使用しましたか。	110名	1名
4	試験勉強用に新たにノートを作成しましたか。	74名	37名

5 「試験勉強はどのように行いましたか。」という質問には次にあげる内容が記されていた。
(複数回答)

試験用に自分で重要なところをまとめて新たにノートを作成した	42名
試験用の穴埋め問題形式にしたノートを作成した	5名
試験用ノートで赤シート（暗記用シート）を使用して暗記した	35名
教科書・授業ノート・プリントで赤シート（暗記用シート）を使用して暗記した	18名
ひたすら書いて覚えるまで繰り返し暗記した	30名
重要なポイントを声に出して暗記した	4名
試験範囲をひたすら暗記した	11名
繰り返し暗記して覚えていないところをピックアップしてさらに繰り返し最後まで覚えるまで取り組んだ	30名
教科書・プリント・ノートを併用してマーカーなどで印をつけて覚えた	5名
教科書・プリント・ノートを見て覚えた	16名
友達と問題を出し合って暗記に取り組んだ	4名
重要なところを書きだして覚えた	5名

4-3 定期試験

定期試験問題は問題数77題で用語の記述や穴埋め問題などが中心だが、すべて記述式で正しい漢字で記述することとしている。記号などの選択問題はなく用語も選択枠はない。事前学習をしっかりと行い用語を覚えるだけではなく、正しい漢字で記述できなければ正解とはならない。単純な事ではあるが、学習すれば解答出来て、学習を怠ると解答できないようになっている。

目的は、「学習を怠っても何とかなる」「やってもやらなくても違いが判らない」という学習に対しての曖昧な認識を避けるためである。また保育の専門用語の理解や正しく記述する力は今後の実習日誌や指導案の記述にも必要となってくる。

また、不正行為防止のために座席指定を行い、隣は一行空けて座り、さらに問題は6種類用意した。問題の内容はすべて同一で問題の番号の配置が異なるものが6種類あり、縦と横が同じ配置の番号の問題にならないように配布している。このような厳重な取り組みは学生側から求められる、本学に対する正しい評価の信頼と期待に応えるためである。

4-4 定期試験結果

平均点：74.78点

高得点：99点（4名）

その他：90点以上（26名） 80点以上（47名）

再試験者数：14名

正解率が高かった部分：保育内容・保育方法に関しての問題

正解率が少なかった部分：保育の制度・法的な問題

4-5 再試験者対応

再試験者以外にも一定の点数（70点）に到達しなかった学生に対して、段階別に課題を用意し、受講に対しての振り返りと試験勉強に対しての振り返り、また反省点に対しての具体的な案を自身で考え記述し、不足部分に指導を行うようにした。再試験は1度限りとして、補講を行い個人差はあるにせよ、最後まで学習しそれは個人が合格点に達する自信がつくまで行う。再試験日は早い時間に設定し最終の補講と個別対応の確認を行う。再試験は1回限りの為、試験を受けるタイミングは学生が各自判断して再試験を受ける。結果全員自力で単位修得の合格点に達することが出来た。

V 考察とまとめ

近年、学生の学力の低下に関して問題視されている部分もあるが、学習の習慣が身についていない事や学習の方法がわからないという現状を大学に入学してくる前のどこかの段階で、克服する事は出来なかったのかと考えさせられる。ノートはやはり学習しやすい、という事と勉強をしたという達成感を感じることが出来たようだ。今後はそのノートに対しても評価を加え充実させていきたい。また、4-2の試験勉強の取り組みに関する調査から、ノートを試験勉強用に作成したり、暗記シートを使用して取り組んだり、ひたすら書いて暗記を行って勉強した学生は試験結果として高得点が採れている。しかし、教科書やノート、プリントを眺めるだけという学習内容では、当然のことながら再試験の対象になっている。今後はこの結果を踏まえ、学習の方法論なども提案しながら進めていきたいと考える。更には、講義内容は難しい部

分もあるが現場の事例を踏まえると覚えやすいとのことである。いつの時も、制度に関する問題や法的な内容は難しい様子であるため今後の課題となっていく。再試験に向けての補講での学生の感想として大変印象深いのは、「今回今まで生きてきた中で一番『勉強』というものを行った気がする。」「自分は暗記が出来ない、物を覚えることが出来ない人間だと思っていたが、違った。ここまでの努力はしていなかった。」「頭がウニウニして一時はどうなる事かと思ったが、やってよかった。」という事である。2年次には教育実習・保育所実習・施設実習の本実習が控えている。実習現場での学びの段階で困難と捉えることがあっても、あきらめずに前向きに捉えて努力を行ってほしいものである。これから、社会に出てあらゆる困難に立ち向かっていかなければならない事や、「人間力」を根底とした「社会人力」が求められるこの時代に、一人ひとりが自己を肯定し保育者として生き生きと働いてほしいと願っている。そして、未来を担う子どもたち、また、支援を必要とする子どもたちの為に一生懸命向き合っていくことを期待している。

参考文献

- 1) 上野恭裕他：「現場の視点で学ぶ保育原理」，教育出版，2016
- 2) 柴崎正行他：「保育原理の基礎と演習」，わかば社，2016
- 3) 文部科学省：「幼稚園教育要領解説」，フレーベル館，2008
- 4) 厚生労働省：「保育所保育指針解説書」，フレーベル館，2010
- 5) 内閣府・文部科学省・厚生労働省：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」，2016
- 6) 関口はつ江他：保育の基礎を培う保育原理，萌文書林，2015
- 7) 池田隆英他：なぜから始める保育原理，建帛社，2014
- 8) 田中まさ子他：新時代の保育双書保育原理，株式会社みらい，2014
- 9) 天野珠路他：基本保育シリーズ保育原理，中央法規，2015(10) 佐伯一弥他：Work 学
- 10) 保育原理，わかば社，2015
- 11) 菜原桂子：多様な保育内容と方法の理解を深める授業実践－人間関係から学び続ける保育者の養成を目指して－，北翔大学短期大学部研究紀要第54号 pp.129-136，2015